

令和8年度 小樽市立朝里中学校 学力向上改善プラン

1 生徒の実態

①前改善プランの定着目標の達成状況

【国語科】

| 学年 | 定着目標 | 評価 |
|----|--|------|
| 1年 | ・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-0.8以内とする。 | -0.2 |
| 2年 | ・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-0.5以内とする。 | -0.4 |
| 3年 | ・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差について、-0.1を超える。 | -0.4 |

・国語科では、1, 2年生の数値目標は達成できたが、3年生は達成することができなかった。各学年に応じた必要な言語能力を養うため、知識獲得に向けた学習方法を継続的に指導していくことが必要となる。

【数学科】

| 学年 | 定着目標 | 評価 |
|----|--|------|
| 1年 | ・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-1.0以内とする。 | -0.5 |
| 2年 | ・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-0.5以内とする。 | -1.1 |
| 3年 | ・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差について、+0.1を超える。 | -0.7 |

・数学科では、2, 3年生で目標を下回った。自主的に学習内容の定着が図れる取組を増やせるよう、学習意欲を高めていくことが今後の課題となる。

【学習・生活習慣（家庭学習等）】※令和7年12月生徒アンケート

| 学年 | 定着目標 | 評価 |
|----|---|-------|
| 1年 | ・学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たり1時間以上勉強をする生徒の割合を40%以上とする。 | 38.0% |
| 2年 | ・学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たり1時間以上勉強をする生徒の割合を50%以上とする。 | 48.6% |
| 3年 | ・学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たり1時間以上勉強をする生徒の割合を60%以上とする。 | 76.2% |

・第1, 2学年は目標値にわずかに届かなかった。学習内容の理解には家庭学習が必要であることを継続して啓発していく。第3学年は目標値を大きく上回った。受験期を迎え、家庭学習の必要性を感じ、主体的に家庭学習に取り組んでいる。

②全国学力・学習状況調査結果（教科）：第3学年対象

・国語

| 分類 | 区分 | 平均正答率 (%) |
|--------------|-----------------|-----------|
| | | 全国比 |
| 知識及び技能 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | -1.8 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | - |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | - |
| 思考力、判断力、表現力等 | 話すこと・聞くこと | 0.1 |
| | 書くこと | -4.9 |
| | 読むこと | -6.4 |

・数学

| 分類 | 区分 | 平均正答率 (%) |
|-----------|--------|-----------|
| | | 全国比 |
| 学習指導要領の領域 | 数と式 | 4.1 |
| | 図形 | -2.7 |
| | 関数 | -5.6 |
| | データの活用 | -2.7 |

・国語科では、国語科では、全体的に全国平均を下回り、中でも「読むこと」の領域に大きな課題が見られる。
・数学科では、数と式の領域で全国平均を上回ったものの、他3領域は下回り、特に関数の領域に課題が見られる。式・表・グラフの関連性を定着させることが必要である。

③標準学力調査：第2学年対象

| 国語（領域） | 全国比（平均正答率） |
|-----------------|------------|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | -9.8 |
| 情報の扱い方に関する事項 | -14.0 |
| 我が国の言語文化に関する事項 | -15.4 |
| 話すこと・聞くこと | -3.3 |
| 書くこと | -7.8 |
| 読むこと | -8.3 |
| 数学（領域） | 全国比（平均正答率） |
| 数と式 | -17.3 |
| 図形 | -9.8 |
| 関数 | -8.6 |
| データの活用 | -9.7 |

・国語科では、全ての領域で全国平均を下回っており、中でも情報の扱い方と言語文化の部分に大きな課題が見られる。
・数学科では、全領域で全国平均を下回る結果になった。単元別では、数と式の領域に定着不足が見られる。

④標準学力調査及び全国学力・学習状況調査結果の経年変化（全国平均を100とした場合）

【国語】

| 入学年度 | 標準学力調査 | 全国学力・学習状況調査 |
|-------|--------|-------------|
| 令和4年度 | 95.1 | 103.3 |
| 令和5年度 | 90.6 | 93.9 |
| 令和6年度 | 86.8 | |

【数学】

| 入学年度 | 標準学力調査 | 全国学力・学習状況調査 |
|-------|--------|-------------|
| 令和4年度 | 114.6 | 110.5 |
| 令和5年度 | 90.9 | 97.3 |
| 令和6年度 | 77.6 | |

⑤その他検査（確認テスト、単元テスト、定期テスト等）

・ほっかいどうチャレンジテストの結果（第1学年）

| 教科 | 全道平均正答数との差 | | | |
|----|------------|------|------|----------|
| | 前年度末 | 1学期末 | 2学期末 | 全3回の差の平均 |
| 国語 | -0.3 | -0.3 | 0.0 | -0.2 |
| 数学 | -0.7 | -0.4 | -0.4 | -0.5 |

・ほっかいどうチャレンジテストの結果（第2学年）

| 教科 | 全道平均正答数との差 | | | |
|----|------------|------|------|----------|
| | 前年度末 | 1学期末 | 2学期末 | 全3回の差の平均 |
| 国語 | -0.3 | -0.4 | -0.4 | -0.4 |
| 数学 | -0.3 | -1.7 | -1.4 | -1.1 |

・ほっかいどうチャレンジテストの結果（第3学年）

| 教科 | 全道平均正答数との差 | | | |
|----|------------|------|------|----------|
| | 前年度末 | 1学期末 | 2学期末 | 全3回の差の平均 |
| 国語 | -0.3 | -0.4 | -0.4 | -0.4 |
| 数学 | -0.3 | -1.4 | -0.4 | -0.7 |

・国語科では、全道平均をやや下回っている。複数の資料から必要な情報を読み取る力を養っていききたい。
・数学科では、全道平均との大きな差はないものの、全学年で下回っている。計画的に復習を行うことで既習事項の定着を図っていききたい。

⑤⑥全国学力・学習状況調査（生徒質問調査）、家庭生活及び学習の状況等
・令和7年12月実施 生徒アンケート等の結果

| 質問項目 | 学年 | 結果 |
|---|----|-------|
| 私は学校に楽しく登校している | 1年 | 97.6% |
| | 2年 | 95.7% |
| | 3年 | 92.5% |
| 友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりしている | 1年 | 91.7% |
| | 2年 | 91.4% |
| | 3年 | 92.5% |
| 学校の授業時間以外に、普段（月～金）1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（塾などを含む） ※1時間以上の割合 | 1年 | 38.0% |
| | 2年 | 48.6% |
| | 3年 | 76.2% |

・アンケートの結果から、生徒の心理的安全性が十分に確保されているため、友達と話し合う活動に積極的に取り組むことができています。
・第1, 2学年の家庭学習時間は不十分である。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

| 学年 | 定着目標 |
|----|---------------------------------------|
| 1年 | ・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-0.8以内とする。 |
| 2年 | ・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を±0.0以内とする。 |
| 3年 | ・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-0.2以内とする。 |

<数学科>

| 学年 | 定着目標 |
|----|---------------------------------------|
| 1年 | ・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-1.0以内とする。 |
| 2年 | ・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-0.3以内とする。 |
| 3年 | ・チャレンジテスト全3回の全道平均正答数と本校との差を-0.5以内とする。 |

<学習・生活習慣（家庭学習等）> 生徒アンケートにより確認

| 学年 | 定着目標 |
|----|---|
| 1年 | ・学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たり1時間以上勉強をする生徒の割合を40%以上とする。 |
| 2年 | ・学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たり1時間以上勉強をする生徒の割合を50%以上とする。 |
| 3年 | ・学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たり1時間以上勉強をする生徒の割合を60%以上とする。 |

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①各種調査等の分析結果から見えてきた、朝里中学校区の共通課題である、「問題を正確に読み取る力（読解力）」、「自分の考えを適切に相手に伝える力（表現力）」を育む場を、全教科の学習場面に意図的に設定し、生徒の変容を図る。
- ②放課後学習会を通年で実施し、個別指導の充実を図る。また、長期休業中にも学習会を計画し、基礎学力の確実な定着を図る。

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①「小樽 授業づくりの5つのSTEP!!」に基づいた授業を展開する。基礎となる生徒の心理的安全性を確保した上で、生徒に単元や本時の目標や学習内容の見通しをもたせ、子どもが主体となる場面を設定し、授業の終末場面では子ども自身が学びを振り返る時間を確保する。
- ②国語科では、語彙力の向上を目指していきたい。学年に応じた必要な語彙を自ら獲得できるように授業づくりや、家庭学習方法を伝えていきたい。また、生徒が間違いを気にせず、表現することに慣れていけるような授業づくりを目指す。
- ③数学科では、個での思考と集団での共有を大切にしながら授業に取り組んでいけるよう、教材研究を中心に授業づくりを行っていく。タブレットの利用や生徒同士の交流などにより、主体的に課題を解決できるような授業の流れを組み、より一層学習内容の深い理解や定着を目指していく。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①放課後学習会通信を発行し、生徒が自身の学習習慣や生活習慣を見直すきっかけとなる情報を提供する。合わせて、「おたるスマート7」の啓発にも努める。

4 実施計画

| 年月日 | 計画内容 |
|-----------|---|
| R8年 4月 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度学力向上改善プランの提示 ・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ・チャレンジテスト（前年度問題）の実施 ・放課後学習会の実施（通年） ・二者面談 <p>○R8全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点</p> <p>○標準学力調査実施（第2学年）</p> |
| 5月 | ・小中一貫教育協議会（全国学力・学習状況調査の分析結果の交流） |
| 6月 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、生徒アンケート①の実施及び分析 ・教職員アンケート①の実施及び分析 |
| 7月 | <p>○標準学力調査結果分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観週間 ・第1回小中合同研修会 ・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・三者面談 |
| 8月 | <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み学習会の実施 ・全学年前期定期テスト <p>○R8全国学力・学習状況調査結果分析</p> |
| 9月 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力テストA（第3学年） <p>○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善</p> |
| 10月 | ・学力テストB（第3学年） |
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力テストC（第3学年） ・第2回小中合同研修会 ・三者面談 |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業研究会 ・地域公開日 ・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施 ・保護者、生徒アンケート②の実施及び分析 ・教職員アンケート②の実施及び分析 |
| R9年 | <ul style="list-style-type: none"> ・冬休み学習会の実施 ・第3学年後期定期テスト |
| 1月 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・第1, 2学年後期定期テスト |
| 2月 | <ul style="list-style-type: none"> ・第3回小中合同研修会 <p>○新学力向上改善プランの作成</p> |
| 3月 | |

5 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①各種調査等の結果を分析し、評価する。
- ②放課後学習会及び長期休業中の学習会への生徒参加数から評価する。

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①校内研修の取組である授業交流やミニ研修等の取組を通して、授業改善の進捗状況を確認し、評価する。
- ②各種調査等の結果を分析し、評価する。
- ③各種調査等の結果を分析し、評価する。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①年2回実施する生徒アンケートから、生徒の変容を確認し、評価する。